

世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界経済の見通しは不透明感を増し、穀物や原油などの原材料価格高騰に始まり、人手不足の影響や物流の停滞による経済活動への影響が懸念されています。このような厳しい情勢の中にあって、国は成長戦略の一環として、RCEP(地域的な包括的経済連携)協定の発効等をチャンスと捉え、海外市場を取り込むと同時に、国内生産を維持・拡大していくため、農林水産物の輸出拡大実行戦略が改訂されました。農林水産物の輸出の中では、とりわけ牛肉に注目が集まる中、和牛の生産基盤の拡充による増頭体制の強化が求められています。更なる生産基盤拡大への期待が大きい反面、わが国の農林水産業は、急速に進む世界経済のグローバル化の中で、国際情勢の激しい変化にされることとなり、国内の和牛生産体制をより強固なものとしていかなければなりません。

このような中、登録事業においては、引き続き、法人経営や大規模経営を中心として、優良雌牛導入や受精卵産子の増加が期待され、登録頭数や登記頭数については微増と見込んでいます。一方で、農業分野に限らず全体として少子高齢化が急速に進みつつあり、会員農家数の減少が見込まれます。引き続き、小規模経営を含めた多様な経営形態に適切に対応するためにも、各地域で活躍する地方審査委員や登記検査委員等、技術員等の養成はより一層重要性を増しており、円滑な登記・登録事業が図れるように努めてまいります。

また、今年10月には第12回全国和牛能力共進会(以下「全共」という)最終比較審査を開催し、過去最多の41道府県より種牛265頭、肉牛169頭、特別区25頭、合計459頭が鹿児島会場に集結します。共進会の開催テーマである「和牛新時代 地域かがやく和牛力」に相応しく、新しい和牛の価値観を示す大会となるよう努めます。これら全共への取り組みを通じて、改良組合や育種組合活動の活性化を促し、遺伝的多様性の維持拡大を目途とした地域に特色ある牛づくりを推進し、地域内でより多くの優良雌牛保留に努め、生産性の高い繁殖雌牛集団の拡充を目指します。さらに、特別区に対しては、農業教育とその学習活動を通じた和牛への理解醸成が担い手の育成につながることを期待しています。

また、新たな改良手法として期待されているゲノミック評価については、各県とも協力しながら多角的に精度検証を進めつつ、今後の応用が期待されている生産性や食味性に関わる形質について、各種事業を活用しながら、評価手法の検討を行います。

さて、令和2年10月1日に「家畜改良増殖法の一部を改正する法律」及び「家畜遺伝資源に係る不正競争の防止に関する法律」等が施行され1年以上が経過しました。引き続き、和牛遺伝資源の適切な流通管理と保護が求められており、農林水産省はもとより、優良和牛遺伝子保留中央協議会や和牛遺伝資源国内活用協議会と連携を図りながら、関係者一体となり取り組んでいきます。

また、農林水産省をはじめ行政機関や関係諸団体と連携し、和牛の改良増殖に貢献する登録事業の展開を推進して参ります。

I. 事業の部

1. 登録・検定事業

1) 登記・登録頭数

先行き不透明な環境が続くことが予想されますが、生産基盤の拡充も期待され、基本登録43,000頭、本原登録33,000頭、高等登録1,500頭を計画しました。なお、生産性の高い雌牛集団の整備に向け、高等登録の受審促進を継続します。

また、子牛登記については500,000頭を見込みました。

2) 種雄牛の各種検定の立会及び遺伝子型調査等

産肉能力検定に関しては、直接法100セット、現場検定120セットを見込みました。

遺伝的不良形質の検査を含む遺伝子型調査については、総計80,000件を見込みました。

なお、今年度も公募事業を活用した遺伝子型検査によるモニタリング調査を実施し、和牛の信頼確保対策に取り組むこととします。また、SNP型による親子判定を実施するとともに、和牛DNAデータベースの一層の充実と活用を図ります。

各道県で実施される県内版現場後代検定調査会を必要に応じて支援します。

また、脂肪の質に関する育種価評価体制の定着を図り、育種価の活用方法を検討し、新たな牛肉の価値観構築に向けて取り組みます。

2. 育種改良事業

1) 集団育種事業の推進と現地調査及び指導・援助

育種組合活動の強化を図り、産肉能力の維持とともに、繁殖性や飼料利用性等の改良を促進し、生産性の向上を目指します。さらに、遺伝的多様性の確保を図るため、SNP情報を用いたストラクチャー分析による系統分類法を活用し、地域の系統再構築の取り組みを支援します。

本年度の育種組合現地検討会は、各育種組合と協議の上、適宜実施し、必要に応じて支部が主催するミニ検討会の開催に協力します。

なお、育種牛認定頭数は雄25頭、雌500頭を見込みました。

2) 和牛改良組合の育成強化

和牛改良組合の合併、広域化が進んでいますが、新たに認定される組合を含め、認定されている和牛改良組合は、440組合(令和4年4月1日現在)となります。

和牛改良組合は、生産者が自主的に組織し、本原登録の実施による優良牛の確保と地域に立脚した生産並びに改良を行う重要な生産者組織であることから、本年度も下記の事業によって改良組合の育成強化を図り、生産基盤の強化に努めます。

①和牛改良組合育成強化研修会の開催

組合活動の育成強化を図るとともに、組合間の交流を深めるため、4ブロック(東

部：茨城、中部：長野、中四国：高知、九州：大分)で開催します。

②相互交流を目的とした女性部研修会の開催

③支部主催和牛振興研修会への協力

支部の主催により開催される当該研修会に講師を派遣するなど積極的に協力します。

④和牛改良組合活動に対する表彰

組合活動において優秀な成果が認められた組合を第12回全共最終比較審査会場にて表彰します。

3) 各種遺伝情報の解析とその有効利用について

各種公募事業や協会事業等を通じて蓄積された脂肪酸組成や牛肉の一般成分あるいは交雑脂肪の形状等のデータを用いて、牛肉の品質並びに食味性形質に関して網羅的に分析し、和牛肉の新たな客観的評価手法の検討を進めていきます。

また、子牛登記証明書備考欄への母牛の分娩間隔の育種価指標表示をはじめとした種牛能力の改良に係わる情報の活用を推進します。

また、和牛DNAデータベースの充実を図り、SNP情報を用いたストラクチャー分析による系統分類法を活用し、遺伝的多様性の確保につながる取り組みを検討します。さらに、ゲノミック評価については、多角的に精度検証を行い、今後の応用が期待されている生産性や食味性に関わる形質については、各種事業を活用しながら、評価手法の検討を行います。

4) 優良和牛遺伝子の保留強化について

和牛遺伝資源関連二法の施行により、和牛の遺伝資源の流通管理の徹底と知的財産としての価値を保護する取り組みが強化されています。優良和牛遺伝子保留中央協議会と連携して和牛遺伝子の保留強化に努めるとともに、国内における和牛遺伝資源の適正な流通管理を推進する和牛遺伝資源国内活用協議会の活動に協力し、和牛の遺伝資源としての重要性について啓発普及に努めます。

5) 各種委員会について

厳正公平で効果的な登録事業及び育種事業の推進を図るために中央審査委員会、育種推進委員会、産肉能力検定委員会、和牛改良組合強化委員会など各種委員会を開催します。

3. 技術者等養成研修事業

以下の事業に取り組みます。

1) 地方審査委員認定講習会

地方審査委員の養成のため、北海道、東部(福島)、中部・中四国(島根)、九州(大

分)の4地区での開催を計画します。

2) 支部・支所職員等の研修会

【本部主催】

①「和牛入門ゼミナール」

支部・支所及び委託団体の和牛業務の初心者を対象として開催します。

実習の部:東日本(福島)、西日本(岡山)

講義の部:京都

②本部主催「登記検査委員認定講習会」(兵庫(神戸大), 他)

③和牛育種・改良問題公開セミナー

育種改良に携わる中核的職員を対象として開催します。

④事務研修会

【支部・委託団体主催】

①支部・委託団体主催「登記検査委員認定講習会」の開催

②若手技術員研修会

3) ブロック別地方審査委員会

審査委員の審査技術水準の維持と斉一化を図るため、ブロック別に地方審査委員会を開催します。

東部(北海道)、中部(愛知)、中四国(京都)、九州(沖縄)

4. 普及啓発事業

1) 第12回全国和牛能力共進会について

第12回全国和牛能力共進会最終比較審査に向けて、参加道府県の出品準備に的確に対応しつつ、最終比較審査会場における改良成果の実証展示について支援します。さらに、鹿児島県実行委員会とともに、付帯行事や会場の諸準備に万全を期します。また、第5回全国連絡協議会を鹿児島県にて開催し、出品各道府県との連絡調整を進めます。さらに、特別区(高校及び農業大学校の部)に関連する学校を対象に、研修会の開催や共進会に向けた取り組みに対しても支援を行います。

2) 各道府県共進会について

各道府県で開催される共進会に対して協力します。

3) 高校生を対象とした家畜審査競技会について

担い手育成の一環として県レベルで取り組まれる家畜審査競技会に対して必要に応じて支援します。

4) 畜産物輸出促進協議会及び品質情報提供システムへの協力

畜産物輸出促進協議会に参加するとともに、和牛登録事業への理解醸成及び登記登録証明書への価値観の一層の向上のため、トレーサビリティシステムと登録情報、枝肉格付情報からなる品質情報システムの運用に協力します。

5) 各種刊行物の発行

登録簿については、電子媒体(DVD)での作成を行います。また、和牛誌4回、和牛だより1回を発行するほか、和牛産肉能力検定成績報告書をはじめ、各種報告書及び和牛の改良とその成果向上に資する資料を随時配布し、情報提供に努めます。

5. その他

国の施策等に基づく「畜産生産力・生産体制強化対策事業」(国一般予算)、「和牛の飼料利用性評価指標検討普及事業(応募中)」「和牛肉の新価値観構築事業」「和牛の繁殖能力の遺伝情報活用手法実証事業」(以上、JRA事業)、その他、和牛の登録事業と改良事業に資する公募事業等に取り組みます。その他、支部においては、和牛改良につながる補助事業や県単事業にも随時取り組みます。

II. 運営管理の部

1. 会員及び賛助会員について

酪農及び肥育農家の和牛繁殖雌牛の導入に伴う新規参入後継者、新規就農者の参入を図るとともに、小規模経営や高齢化した農家の離脱を最小限にとどめることを目標とし、会員数は44,000名を見込みました。

賛助会員については中央団体12団体、地方団体50団体、個人30名の加入を目指します。

2. 会議等の開催について

- 1) 総会の開催
- 2) 理事会、監査会の開催
- 3) 支部評議会、支所評議会の開催
- 4) 全国支部長会、登録協議会の開催
- 5) ブロック別支部長会の開催

3. 社員選挙について

社員選挙を実施します。